

課題名	11. 除草剤(ポラリス)の殺草効果									
成果の要約	400 ml/、500 ml/10a の薬量散布区では、1年生雑草のカラスノエンドウ、ナズナ、メシバ、イヌビユウ、ハマスゲや多年生雑草のヨモギ、ギシギシ、タンポポ等に効果が高く殺草、抑草期間も長かった。300 ml/10a では雑草の草丈が大きいほど、殺草、抑草期間ともやや効果が劣った。対照薬剤のプリグロックスLに比べると効果の発現はやや遅く、春期の気温が低い時期は効果の発現まで5日程度を要した。									
成績概要	表1. 殺草、抑草に対する効果									
	使用時期	処 理	製 品 散 布 薬 量 水 量	枯 殺 効 果	再 生	抑草期間				
			(ml/10a)(ℓ/10a)	(日)	(日)	a)	(日)	(日)	(日)	(日)
春	ポラリス液剤	300 25	5	19	++~×	26	42	42		
		400 25	5	19	++~×	26	42	42		
		500 25	5	19	++~×	26	42	42		
	プリグロックスL液剤	1000 150	1	8	×	19	37	37		
夏	ポラリス液剤	300 25	2	7	++~×	41	51	51		
		400 25	2	7	×	41	57	57		
		500 25	2	7	×	51	68	68		
	プリグロックスL液剤	1000 150	1	2	×	22	22	41		
	a) - : 効果なし、 + : やや効果あり、 ++ : 効果高い、 × : 完全枯死									

<p>成 績 概 要</p>	<p>(果樹試験場)</p>
<p>普及上の留意点</p>	<p>専用ノズルを用いての少水量散布であるが、草丈が大きいと(30cm以上)殺草効果が劣るので、雑草の草丈が20~30cmのころ、茎葉部に薬液が十分付着するよう散布する。</p>